大学・高専機能強化支援事業
令和6年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和6年12月16日(月)	区分	支援2大学(ハイレベル枠)
選定年度	令和5年度	大学名	神戸大学
設置等組織名	<学士>システム情報学部システム情報学科 <修士>システム情報学研究科システム情報学専攻 <博士>システム情報学研究科システム情報学専攻	設置・定員増員年度	<学士>システム情報学部システム情報学科(R7設置) <修士>システム情報学研究科システム情報学専攻(R6増員・R7増員・R11増員) <博士>システム情報学研究科システム情報学専攻(R13増員)
事業計画名	神戸大学システム情報学カレッジ構想による高度情報専門人材の育成		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。定員の増加に合わせた施設や設備の充実も着実に進んでいる。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・研究室、修士課程、博士課程の垣根を超えて柔軟かつ機動的に形成されるユニット群において、アクティブラーニングを行う Co ユニット科目(Co-Creation and Collaboration)を核とした教育プログラムを導入し、基礎教育や専門科目を学んだ上で、社会ニーズをどう解決するかをさまざまな世代の学生や教員を交えて議論する P²BL(Project/Problem Based Learning)形式の授業を行っている。
- ・富士通スモールリサーチラボを設置し、コンピュータ支援エンジニアリングや材料情報科学領域における高速な計算実行基盤の社会実装に向けた、スーパーコンピュータ富岳が神戸に設置されている利点を活かし、先端コンピューティング技術に関する共同研究を組織として立ち上げている。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・修士課程については、他大学からの入学者がさらに増えるとうい。アドミッションポリシーを検討するなどして、多様な学生を受け入れていくことを期待したい。また、女子学生・留学生・社会人学生については、大学で定めた目標値の達成に向けて、引き続き取り組みを進めていただきたい。
- ・博士課程の定員はさらに増やしてもよいのではないか。ハイレベル枠に選定された大学には、情報系教員の養成も視野に入れて考えていただきたい。修士の学生も一度企業に出たあとに博士課程に戻りたいとの希望があり、新しいキャリア形成の道を選びやすい工夫を期待したい。
- ・学生から大学への要望として、さまざまなクラウドサービスや新しい LLM などのツールを学生からの個別申請によって使用できるようにしてほしいとの意見があった。また、研究室を越えた学内カンファレンスを行い、他の研究室の活動を知る機会を増やしてほしいとの意見もあった。
- ・富士通スモールリサーチラボは非常に有効に利用されており、他の大学にも波及させたい良い取り組みであると感じた。富士通だけでなく他の企業とも同様の活動を行い、大学と産業界が学生を交えて交流できる場を作っていただきたい。
- ・学生にとって、理化学研究所のスーパーコンピューター「富岳」があるということが、神戸大学への進学の手決め手となるケースもあると考えられるので、「富岳」をもっと前面に出して宣伝するとよいのではないかと。

- ・MOOC等を利用した「情報基礎教育プログラム」の横展開について、神戸大学に先鞭を切って中高生に情報系の面白さを伝えるコンテンツを作っていただきたい。理系文系に分かれる前の段階で、女子学生に理系、情報系に進学したいと思ってもらえるような教材を作っていただくことを期待したい。
- ・各種取り組みがシステム情報学研究科単体で完結しているように見えるため、他学部・学科への情報教育の支援等、神戸大学全体へ広がりを持って取り組みを進めていただきたい。
- ・富士通スモールリサーチラボのような、教員と学生が一体となって議論する機会をより活用し、研究成果を実際の社会に応用していくためには何が必要であるかを、学生だけではなく、教員にも教えていくとよいのではないか。
- ・学部を新設することは、事務体制含めて非常に大変なことだが、CSI 高度情報専門人材育成推進センターの教員とその他の教員が役割分担をしながら、教職一体で取り組み、日本のモデルになるように頑張ってください。